

〈学校図書館部会〉

研究主題・副主題

「学校図書館を活用し学習指導の充実を図る指導内容・方法の研究開発」

－児童・生徒の主体的な学習活動を支え、「読解力」を高める司書教諭の役割－

研究の概要

「文字・活字文化振興法」が施行（平成17年7月29日）され、読む力の育成が求められている。これに先立ち、平成16年12月に結果が公表されたOECD（経済協力開発機構）の2003年PISA調査（生徒の学習到達度調査）は、「読解力」を「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と定義しており、その育成を図ることは我が国の重要な教育課題の一つとなっている。

そこで本研究のねらいを、学校図書館を活用して「読解力」をはぐくむための指導内容及び方法の究明と設定し、「読解力」の主要素を明らかにした上で、校種ごとにその育成を図るための授業研究を行った。

その結果、①児童が所定の本を探し出し、目的をもって読み進める学習指導、②話合いや発表の仕方に係る学習指導、③情報カードを活用した学習指導、④生徒が意欲的に書き進める小論文作成に係る学習指導の4つを開発し、実際の授業を通してそれらの有効性を検証することができた。

I 研究の目的

PISAの定義する「読解力」をはぐくむためには、児童・生徒が必要な情報を収集し、比較・吟味するなど、自ら学習を進める授業づくりを行うことが効果的である。そのために、学校図書館を活用した指導内容及び方法を開発し、司書教諭の役割について究明する。

II 研究の方法

文献研究等により、学校図書館を活用して育成を図る「読解力」の内容（以下「育成能力」という。）と、主な学習指導の視点を明らかにした上で、各校種ごとの特性を踏まえた授業研究を実施し、その結果を分析・考察した。

1 育成能力

- (1) 課題に応じた図書を選択し、その内容を理解・評価しながら読む力
- (2) 図やグラフなど、多様な教材に対応した読む力
- (3) 選択した図書を活用して自分の考えを表現する力

2 主な学習指導の視点

- (1) 児童・生徒が課題に即応した図書を選択し、理解・評価しながら読む学習指導
- (2) 児童・生徒が自ら学ぶために必要となる情報活用能力をはぐくむ学習指導
- (3) 児童・生徒の興味・関心を生かし、読書意欲の喚起を図る学習指導

Ⅲ 研究の内容

1 小学校の研究

学校図書館を活用した児童主体の授業を展開するためには、児童自らが必要な本を探し出し、読み取った事柄を基に自分の考えを発表し合うことが大切である。小学校の研究では、こうした学習を展開する上で必要な知識や技能をはぐくむ指導内容・方法について追究した。

なお、授業研究については、平成16年度に作成された小学校第2学年の学校図書館年間指導計画例（「東京の教育21」研究開発委員会指導資料、学校図書館部会）に示された学習指導を、読解力の育成という観点から取り上げることにした。

(1) 所定の本を探し出し、目的をもって読み進める学習指導（特別活動「学級活動（2）」全学年）【育成能力1／学習指導1・3】

児童が体験を通して本の探し方を身に付け、必要な情報を読み取る力をはぐくむ学習活動として「わくわくブックラリー」を開発した。これは、児童が指定された複数の本を探し出し、その中から興味のある本を読み進め、用意された設問に答える学習活動である。

① 指導のねらい

ア 児童が学校図書の分類法を理解し、必要な図書を選び出せるようにする。

イ 必要な情報を限られた時間内に読み取る力を育成する。

② 指導方法

ア 事前に分類表について説明する。

イ 5冊の書名を一覧表にしたカードを配布する。書名の横には設問を記しておく。

ウ 一覧表にある本を探し、カードにラベルの記号を写すように指示する。

エ 5冊の番号を写し終えた児童は、司書教諭にカードを提出し、点検を受ける。

オ 番号を調べ終えた児童には、5冊の図書のうち最も興味・関心のある1冊を選んで読み進め、設問に対する解答をカードに記入するように指示する。

カ 解答を記入し終えた児童には、異なるカードを配布して学習活動を継続させる。

③ 指導上の留意点

限られた時間内で読み進めて設問に答えるため、ページ数の多い図書は選定しない。

④ 司書教諭の役割

ア 児童の発達段階に応じた図書を100冊選び、カードを20種類作成しておく。

イ 地域の図書館と連携し、カードに記載した図書を複数借り出しておく。

ウ 学級担任とのチーム・ティーチングで、図書を探せない児童への支援を行う。

⑤ 指導後の児童の感想から

・本の探し方が分かり、ためになった。

・読みたい本に出会えて、図書館に来るのが楽しみになった。

(2) 話合いや発表の仕方に係る学習指導（生活科 第2学年）【育成能力1・3／学習指導1・3】

① 単元名「生きもの大すきー生きものについての本をしょうかいしますー」

② 指導のねらい

ア 自分の読みたい本を探して、楽しみながら読めるようにする。

イ 本を紹介し合い、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

③ 指導方法

- ア 生き物について、自分が読みたい本を探して読み、感想を書く。
- イ 読んで考えたことや感想、友達に紹介したいことなどをワークシートに書く。
- ウ おもしろかった本と、その感想などを発表し、意見交流を行う。

④ 指導上の留意点

- ア 関心のある生き物について事前に調べ、全児童が興味深く読める本を用意する。
- イ 分かりやすい本の紹介ができるよう、模範を示しながら話型に関する指導を行う。

⑤ 司書教諭の役割

- ア 公共図書館と連携し、児童が興味をもって読み進めることができる本を確保する。
- イ 2種類のワークシートを作成し、聞き手に分かりやすい発表にする。
 - あらすじをまとめて書くシート
 - 友達に紹介したいことを書くシート
- ウ 話型や発表の仕方について指導する。指導の主な視点は、次のとおりである。
 - 基本的な話型を示す。

「わたしがこの本を選んだのは～だからです。」

「わたしがためになったのは～というところです。なぜなら～だからです。」

「〇〇さんに質問します。～とはどういうことですか。」

○発音や発声等に関するポイントについて教え、司書教諭が模範を示す。

- ・話の最後まではっきりと言いましょう。
- ・聞いている友達全員に聞こえる声で話しましよう。
- ・話に関係する本のページを見せながら話しましよう。

⑥ 指導後の児童の感想から

- ・どんなことを友達に知らせたらよいかと考えながら、何度も読み返しました。
- ・友達の本の紹介を聞いて、自分も読みたくなりました。
- ・友達から犬のしつけについて教えてもらったので、家族にも知らせたいです。

(3) 成果と課題

児童が学校図書館に興味・関心をもち、本に親しむようにするためには、学校図書館の本をできるだけ多く手に取らせることが大切である。また、本の探し方については、低学年から体験を伴った学習活動を通して習得させることが必要である。「わくわくブックラリー」は、こうした視点に立って開発した学習活動であり、実際の授業を通してその有効性を検証することができた。また、「話合いや発表に係る学習指導」では、司書教諭が話合いや発表の仕方を具体的に指導した。従来、こうした指導は学級担任が一人で担当してきた。司書教諭が中心となって指導資料を作成し、各担任に提供することは、全校体制で系統的に話合いの学習指導を推進することにつながった。

今後は、司書教諭のリーダーシップの下、学校図書館部会等の組織が児童の発達段階に即した指導資料を作成し、蓄積していくことが必要である。また、児童が自分の興味・関心や課題に応じた図書を選定できるように、公共図書館との連携の在り方について追究すること及び学校図書館を活用した学習指導の在り方について、小・中学校の9年間を見通した系統的な研究を行うことが重要である。

2 中学校の研究

本の読み方は、教科等によって異なる。したがって、様々な教科等において学校図書館を活用した学習指導を展開することは、生徒が多様な読み方を習得することにつながる。

中学校の研究では、各教科等の指導と関連した学校図書館運営計画を作り、そこに示した情報カードの活用に係る授業開発を行うことにした。

(1) 教科・領域等の指導の充実を図る学校図書館運営計画

【表1】のような学校図書館運営計画を作成し実施することにより、今まで国語科のみが担ってきた「読解力」に係る指導を学校全体で行うことが可能となる。

【表1】 学校図書館運営計画

学期	第1学年		第2学年		第3学年		学校司書との連携等
1 学期	教科・領域等	図書館の活用	教科・領域等	図書館の活用	教科・領域等	図書館の活用	各種資料の整理 オリエンテーション 情報カードの作成 情報カードの記述指導 情報カードの整理・保管 調べ学習に係る指導 レファレンス 公立図書館団体借出し 特集本コーナーの設置 図書室だけの作成 朝読書の本の用意 予約本の調整 購入図書のリスト作り 貸出し業務 図書委員会の指導 ブックトークの実演 紙芝居の実演 アニメーションの実演 夏季ブックリスト作り
	図書館案内	十進法確認 情報カードの活用演習	図書館案内	情報カードの活用演習 プレゼンテーション演習	図書館案内	プレゼンテーション演習	
	国語、英語	新聞の読み方 各種辞典の使い方	国語	平和・生き方について 短歌の鑑賞	国語	歳時記、俳句の鑑賞 著作権について	
	社会	地図の見方	社会	統計資料の活用法 年表、歴史地図の活用	社会	統計資料や年鑑を利用する。	
	理科	植物図鑑の使い方	美術	浮世絵等、日本の伝統 芸能	美術		
	美術	美術作品集に興味をもつ。	美術	浮世絵等、日本の伝統 芸能	選択美術	画集、デザイン集	
	保健体育	体力作りの参考図書	選択社会	各自の課題追究(歴史 的人物について)	選択理科	各自の課題追究(環境)	
	家庭科	環境地図を作る	選択国語	絵本製作の基礎 (絵本の多読)	選択国語	古典を読む。	
	選択国語	教材文からテーマを決め、調べ学習をする。 本の帯作り	選択国語	絵本製作の基礎 (絵本の多読)	選択社会	各自の課題追究(現代社会の問題について)	
	総合的な学習の時間	テーマ「食を考える」 各自の課題追究	総合的な学習の時間	テーマ「横浜」 各自の課題追究	総合的な学習の時間	テーマ「京都・奈良」 各自の課題追究	
朝読書	読書の習慣化を図る。 (通年)	朝読書	読書の習慣化を図る。 (通年)	朝読書	読書の習慣化を図る。 (通年)		
■ 図書委員会の活動 個人カード作成、活動方針・計画作成、朝読書の呼びかけ及び本の管理、ブックトーク、夏季休業中の開館							
2 学期	国語	自然(調べ学習) 小グループでの話し合い 古語辞典の使い方	国語	バリエーション(調べ学習) ポスターセッション ブックトークの仕方	国語	平和(調べ学習) パネル・ディスカッション 小論文	各種資料の整理 レファレンス 図書委員会の指導 ブックトークの実演 公立図書館団体借出し 特集本コーナーの設置 図書室だけの作成 朝読書の本の用意 予約本の調整 購入図書のリスト作り 貸出し業務
	選択国語	故事成語、ことわざ	理科	科学的な読み物	音楽	音楽事典の引き方	
	総合的な学習の時間	テーマ「職業」 身近な職業(調べ学習) 生き方(調べ学習)	社会	年鑑の使い方	美術	本のデザイン(装丁)	
	選択社会	各自の課題追究(歴史 的人物について)	選択美術	各自の課題追究(歴史 的人物について)	選択美術	画集、デザイン集	
	総合的な学習の時間	テーマ「上級学校」 ガイドブック、地図	総合的な学習の時間	テーマ「上級学校」 ガイドブック、地図	総合的な学習の時間	テーマ「京都・奈良」 各自の課題追究	
■ 図書委員会の活動 朝の読書への呼びかけ及び本の提供・管理、図書室まわりの開催							
3 学期	国語	近代の文学作品を読む。 百人一首について調べる。	国語	シナリオ作品に親しむ。	国語	世界の名作に親しむ。	各種資料の整理 レファレンス 図書委員会の指導 ブックトークの実演 公立図書館団体借出し 特集本コーナーの設置 図書室だけの作成 朝読書の本の用意 予約本の調整 購入図書のリスト作り 貸出し業務 アニメーションの実演 紙芝居の実演 製本補助 年間まとめ
	音楽	合唱曲の詩の鑑賞	音楽	世界の音楽や楽器に関心をもつ。	保健体育	健康について考える	
	社会	地域資料の活用	選択美術	写真集、画集の活用	音楽	「勸進帳」を入りにして 古典に親しむ。	
	音楽	合唱曲の詩の鑑賞	選択国語	アニメーションの実施	選択国語	紙芝居を読む。 アニメーションの実施	
	英語	簡単な原書を読む。	選択社会	各自の課題追究(現代 社会の問題について)	選択美術	画集、デザイン集	
	選択国語	アニメーションの実施	選択英語	英語の絵本や童話を読む。	選択社会	各自の課題追究(現代社 会の問題について)	
総合的な学習の時間	様々な生き方や社会を支える仕事について	総合的な学習の時間	まとめ方と発表の仕方 について	総合的な学習の時間	自分の特性や適性につ いて		
■ 図書委員会の活動 朝読書への呼びかけ及び本の提供・管理、年度末の本の返却・点検、卒業生への貸出しカードの記念配布							

(2) 情報カードを活用した学習指導（「総合的な学習の時間」第2学年）【育成能力1・2・3 / 学習指導1・2・3】

生徒が図書を活用して自分の考えを表現するためには、読んで得た知識や考えた事柄を、整理し保存しておくことが大切である。こうした情報の収集・整理・活用にかかわる指導は、従来、必ずしも計画的に行われてこなかった。そこで本研究では、司書教諭がカードの書き方から活用に至る具体的な指導を全学年を通して行うとともに、生徒が作成した情報カードを互いに閲覧できるシステムを作ることにした。

① 指導のねらい

- ア 目的をもって読書し、読み取った情報を収集・整理することができるようにする。
- イ 収集した情報について自分なりの意見を持ち、表現することができるようにする。

② 指導方法

- ア 国語の時間に読んだ「心のバリアフリー」を基にして、学習課題を設定する。
- イ 情報カードの使い方を指導する。
- ウ 課題に沿って情報を収集しまとめる。
- エ 類似の学習課題を設定した生徒同士がグループを組み、発表し合う。

【表2】情報カード（例）

「分類番号」	年 組 氏名
「書名」「著者」「出版社」「出版年」「ページ」「備考」	
(著書からの引用)	
(自分の考え・感想)	

③ 指導上の留意点

- ア 1枚の情報カードには、1項目だけ引用するように指導する。
- イ 情報カードは学校図書館内に分類・整理して保管し、自由に閲覧できるようにする。
- ウ 作成・保存した情報カードの枚数が分かるように、個人別の情報カード一覧を作る。
- エ 情報カードの枚数が多い生徒については、定期的に図書委員会から表彰を行う。

④ 司書教諭の役割

- ア 情報カードの作成及び活用方法に関する指導を行う。
- イ 公共図書館と連携し資料を借り出すとともに、ブックトークを行う。
- ウ 全校生徒の作成した情報カードを、分類・整理・保存する。

⑤ 指導後の生徒の感想から

- ・情報カードにより、本から得た内容をまとめ使いやすくなった。
- ・情報カードがたまるのが楽しみで、調べ学習がはかどった。
- ・友達や先輩の情報カードが参考になった。

(3) 成果と課題

全学年の総合的な学習の時間で情報カードに係る指導を実施し、生徒が作成した情報カードについては学年を超えて閲覧できるようにした。このことは、生徒の図書への関心を高め、貸出し冊数の増加につながった。

今後の課題は、学校図書館運営計画を作成する際、教科等ごとに学校図書館を活用した授業計画を出し合い、関連する学習についてはクロス・カリキュラムの発想をもって教育課程編成を行うことである。このことにより、生徒の学習は一層つながり、深まり、学校図書館を中心とした学びの統合化を図ることができるものとする。

3 高等学校の研究

高等学校の研究では、司書教諭の役割を、教科担当教諭や学校司書との授業づくりに係る連携を深めることにより、各教科等の指導と学校図書館との結び付きを一層強化することと設定し、「読解力」向上に係る研究開発を行った。こうした役割を実現するためには、①各学校の実態に応じた適切な学校図書館の運営計画を作成すること、②学校図書館を活用した学習指導の工夫・改善を図ることの二点が必要である。そこでまず、司書教諭の具体的な業務内容を記した学校図書館運営計画【表3】を策定した上で、その具体的な展開事例と司書教諭の支援について追究し、実際の授業を通して検証することにした。

(1) 学校図書館運営計画の作成

学校図書館を各教科等で有効に活用できるようにするためには、各学校の実態に応じて学校図書館運営計画【表3】を作成し、実施することが必要である。

【表3】高等学校 学校図書館運営計画(例)

	図書館利用指導・読書指導	各教科での図書館利用	その他(学校行事等)	事務的作業等
1学期	図書館オリエンテーション(1年) 図書館情報活用術(3年) 「あなたの知りたいことは何ですか」	(年間を通じて) ◎レポート作成 倫理(1年) 家庭科(1年) 保健(2年) 選択倫理(3年) 選択政治経済(3年) ◎授業で利用 国語総合(1年) 参考図書利用法 国語総合(1年) ブックトーク実習 情報(2年) 書評の作成 現代文(2年) 作家調査 現代文(3年) 小論文作成 日本史(3年) テーマ別学習 ◎その他 総合的な学習の時間 課題研究 テーマ別学習 各教科課題の個人学習	文化祭クラス別企画決定 校外学習(1年) 鎌倉 修学旅行(2年) 予備調査 教育実習の授業支援 修学旅行(2年) 沖縄・事前調査 文化祭各種企画支援	司書教諭・学校司書 (通年業務) 図書部会の開催 資料の選定 資料の整備 目録の整備 図書原簿の作成・管理 図書館予算の執行 館内整備
2学期	図書館情報活用術(2年) 「図書館を知る・メディアを知る」		修学旅行(2年) 沖縄・報告書作成	(3学期の業務) 来年度予算案の作成 蔵書点検(2週間)
3学期	図書館情報活用術(1年) 「図書館で本を探そう」		進路ガイダンス(各学年) 学校公開 中学生の学校訪問対応 生徒向け推薦図書募集 芸術鑑賞教室の資料展示	
通年	各クラスHR利用の読書講話(随時) 図書館だよりの発行(月1回) 新着図書リストの発行(学期1回) 生徒からの読書相談(随時)			
司書教諭	全学級オリエンテーション(各50分) 読書講話(HR・30分程度) 図書館だよりの作成 各種レファレンス、資料の提供	各種レポートのテーマ設定支援 担当教諭との打合せ レファレンス日誌作成 公共図書館等の紹介	各種コーナーの整備 校外学習関連資料の充実 各種レファレンス 公共図書館等の紹介	

(2) 学校図書館を活用した具体的な学習指導と司書教諭の支援

① 情報活用能力育成への支援【育成能力1/学習指導2・3】

学校図書館の主な機能の一つに、生徒が探究心をもって主体的に学ぶことを支援する機能がある。この機能を生かすためには、次のア～ウの学習指導により、生徒が自らの課題に応じた情報を、様々な資料から収集し活用できるようにすることが必要である。

ア 図書館を十分に活用するため、図書館の仕組みを理解させる。

図書館の分類法、配架規則、資料の探索方法などについての説明・実習などを行う。

イ 多様な情報を収集するため、様々なメディアの特性について理解させる。

各種メディアの特性等について理解させ、様々な情報源を駆使しながら、情報の収集・活用を行えるようにする。

ウ 読書活動の促進を図るため、様々な企画・立案を行っていく。

各教科担当教諭に対して図書館を活用した授業を提案したり、司書教諭自らが計画してティーム・ティーチング等を実施したりする。また、教職員による本の紹介、生徒によるブックトーク、読書会、朝の読書の時間などを企画し、学校教育の多様な場面を通して、生徒と学校図書館とをつなぐ工夫をしていく。

② メディア・リテラシー能力育成への支援【育成能力3／学習指導2】

多様なメディアを教材としながら生徒の「読解力」を向上させていくのも、司書教諭の大切な役割の一つである。例えば、単に1社の新聞を読ませるのではなく、同一テーマを扱った複数社の新聞を読み比べる授業や、新聞記事をより深く理解するための参考文献リストを作成する授業がある。司書教諭は、各教科担当教諭と連携を図りながら、多様なメディアを活用した授業を計画的に実施できるように支援していく。

③ 生徒が意欲的に書き進める小論文作成に係る学習指導〔育成能力1・3／学習指導1〕

就職や進学にかかわってレポート等を作成する機会が、これまで以上に増えている。生徒が分かりやすく説得力のある文章を作成するために、一人一人の課題に応じた適切な資料を提示する必要がある。また、生徒と対話を行いながら、異なる視点をもった複数の資料を紹介することが大切である。学校図書館に資料が不足している場合には、公共図書館等を紹介し活用を促していくことも必要となる。こうした内容を盛り込んだ授業案【表4】を作成し、実際に授業を行った。以下に、その指導案と生徒の感想を示す。

【表4】「学校図書館を活用した小論文の学習指導案」

	学習活動・授業者の支援	司書教諭の支援(学校司書との連携)
事前	論理的な文章について、構成と要約文作成の学習を行う。	学校図書館を活用した授業の指導案作成、図書館情報・参考図書利用法の提示、小論文コーナーの設置、ワークシートの作成
1時	論理的な文章を対象として、グラフの読み取りや資料の活用について学習・指導する。	グラフや表を読み取る観点を示した資料及びワークシートの作成・提示
2時	同一テーマについて、複数の新聞社説を読み、要約文を書き、それらを比較・対照した上で、そのテーマに対する自己の意見文を書く。	新聞の社説提供、ワークシートの作成
3時	要約例と意見文の紹介を行い、を自己評価する。小論文を書く際の資料として、キーワードの例文集と小論文参考図書一覧を配布する。	小論文の基礎知識・キーワード集・小論文の参考図書の資料提供、ワークシートの作成
夏季休業	【課題】生徒が各自の進路に応じてテーマを設定し、2冊以上の参考図書を読んだ上要約し、それらを基に800字程度の小論文を書く。小論文は夏季休業中の課題とする。なお、小論文には、参考図書の内容の要約及び自己の小論文の内容を200字程度に要約したリード文とキーワードを付けるよう指示する。	小論文の資料・構成・内容についての支援、参考図書の資料情報提供(地域図書館の資料情報提供)
4時	学習者同士が互いの小論文を読み合い、200字程度の要約文とキーワードを書き、相互評価する。その際、①評価すべき箇所、②改善すべき箇所、③資料を追加・検討すべき箇所などを互いに指摘する。	小論文の資料・内容・構成についての支援
5時	【研究授業】第4時で行った相互評価をもとに、再度学校図書館の資料を活用して、小論文を図書館で書き直す。その際、他の学習者・授業者・学校司書の先生・研究授業に参加なさっている先生方にも評価・アドバイスを積極的に求め、再校の参考とする。	小論文の資料・内容・構成についての支援、小論文の評価
6時	書き直した小論文を授業者が評価して返却する。その際①～③の評価点を指摘し、再度書くよう指示する。	小論文の資料・構成・内容についての支援、小論文の評価

〔生徒の感想例〕

- 新聞を読み比べて要約文を書く学習が、その後の調べ学習に役立った。
- テーマについて2冊の本を読むことで、自分の考えに広がりや深まりが生まれた。
- 相互評価シートのコメントを参考にしながら推敲することができた。

(3) 成果と課題

小論文の指導では、テーマに沿ったブックリストを作成・提示するとともに、対話を通して複数の資料を紹介し、多角的な思考を促すレファレンスを行うことが有効であった。

今後の課題は、ワークシート等の教材を司書教諭が中心となって組織的に作成し、蓄積していくことである。そのことにより、従来、国語科が単独で行ってきた「読解力」育成に係る指導を、学校図書館の活用を通して全教科・領域等にまで拡大し、生徒の読書の幅を広げ、多様な読み方を身に付けていくことができるものとする。

4 盲・ろう・養護学校の研究

盲・ろう・養護学校では、学校図書館に対するニーズが多様であるため、障害の特性や発達段階を把握した上で個に応じた学習を展開することが必要である。本研究では、平成16年度の年間計画（「東京の教育21」、学校図書館部会）を踏まえ、読解力を高める司書教諭の役割について追究した。

(1) 障害の特性に応じた環境整備【育成能力1・3】

障害等に応じた環境整備は、読書意欲を向上させる上で欠かせない。

- ① 盲学校では、拡大図書、点字図書、テープ図書、デージー図書（CD）、触る絵本等の資料に合わせ、拡大読書機、デージー再生機、CDコピー機等の設備の充実を図る。また、配架状況が分かるコンピュータの検索システムを開発・活用する必要がある。
- ② ろう学校では、視覚情報に富んだ図書の充実や、子どもたちの読解力に応じた配架を行うとともに、図書の内容紹介を多様なメディアを通して実施し、子どもたちが主体的かつ意欲的に本を選択できるための整備を行う。
- ③ 養護学校では、絵本や写真・図解が豊富な資料やコンピュータ等の教育機器を一層充実させる。

その他、各教科・道徳・特別活動や総合的な学習の時間と関連した資料の配架、学校行事・四季に関する特設コーナーを設置し、学習の場面で図書室を活用しやすく整備する。

(2) 学習指導を支援する司書教諭の主な役割【育成能力1・2・3】

- ① 障害の特性等を考慮し、学習のねらいにあった多様なメディアを提供する。
- ② 担任と共に教材や指導案の作成に当たり、授業にも役割を明確にして参加する。
- ③ 学習の成果を発表し合う方法などについて、担任と連携しながら指導を行う。
- ④ 家庭と連携を取って、読書の大切さを啓発していく。
- ⑤ 公共図書館と連携し、学習のニーズに合った図書などを提供する。

(3) 子どもたちの読解力の段階的なとらえ方と司書教諭の支援

子どもたちの読解力を大きく3つの段階に分け、それぞれ必要となる学習指導についてまとめたのが、【表5】である。

【表5】子どもたちの読解力に応じた司書教諭の支援例

教員といっしょに絵本にふれる段階	<ul style="list-style-type: none">・オノマトペ(擬声語・擬態語)、絵本等を教材として、言葉に興味をもたせる。・ペープサート(紙人形)等、追視できる教材を開発・活用する。・司書教諭の話し方や身振り等、表現の工夫により関心をもたせる。
自分で絵本を繰り返し楽しむ段階	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちにとって身近な内容を扱った絵本や展開が分かりやすい話を教材とし、日常よく使われる言葉や事物の理解を促す。・模型や写真カード、絵カード、手話表現など、言葉のイメージをより豊かにする教材を開発し、活用する。

文字が読める 段階	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマを扱った短い文章等を教材として言葉の理解を促す。 ・視覚的な支援や群読などの工夫により、文章の理解を促す。 ・個に応じた課題を追究するため、本を選び調べ学習の方法を教える。
--------------	---

(4) 生徒が調べたことを基にプレゼンテーションを行う学習指導

- ① わたしのお気に入りー古代・西洋美術編ー（ろう学校中学部3年、美術、計4時間扱い）【育成能力2／学習指導1・2・3】

ア 指導のねらい

- (ア) 資料の読解を通して作者、製作法及び歴史的背景など多様な視点で作品に迫り、その魅力をまとめることができるようにする。
- (イ) 作品について調べたことや自分の考えを、視覚的な構成を工夫して表現することができるようにする。

イ 指導方法

- (ア) 司書教諭が、古代・西洋美術に関する資料を複数用意する。
- (イ) 生徒が、各時代の作品から自由に一つ作品を選択するようにする。
- (ウ) 司書教諭が、選択された作品に対応する資料の紹介をする。
- (エ) 生徒が興味・関心に応じた資料を一つ選択し、そこに記された事実や意見を基に分かったことや感じたことをワークシートにまとめるようにする。
- (オ) 生徒がワークシートを基に、作品の特徴や感じたことを、短い文章やキーワードで表す。それらを図や写真と共に効果的に構成し、プレゼンテーションシートに表現できるように指導する。
- (カ) 3～4名の小グループごとに、相互にプレゼンテーションを行わせる。

ウ 司書教諭の役割

- (ア) テーマに関する資料を複数用意し、それらを紹介する準備を行う。
- (イ) ワークシート及びプレゼンテーションシートの枠組を作成する。
- (ウ) プレゼンテーションの仕方について説明する。

エ 指導後の生徒の感想から

- ・作品の魅力を伝えるため、どんなことを説明しようかと隅々まで資料を読んだ。
- ・どんな順番で説明すれば分かりやすいか工夫しながら発表の準備をした。

(5) 研究の成果と課題

障害の特性等に応じた本の紹介や読み聞かせの工夫により、子どもたちの読書の幅を広げ、新しい種類の本に親しませることができた。また、公共図書館との連携により、教科指導の展開に応じた貸出コーナーの設置が可能になった。このことは、学校図書館を活用した教科指導の促進を図り、多様な読み方に係る指導の充実につながった。さらに、プレゼンテーションの学習指導では、学習シートの工夫等により、コンピュータを使ったプレゼンテーションに必要な基本的な能力を育成できた。

障害のある子どもたちの読解力は極めて多様であり、個に応じた指導が必要である。今後の課題は、担任教師が一人一人の子ども読解力を的確に把握し、実態に応じた学習指導が展開できるよう、引き続き資料や教材の開発を行うことにある。

IV 研究のまとめ

研究主題に迫るため、児童・生徒の主体的な学習活動を支え、「読解力」を高める司書教諭の役割に着目をして研究を進めてきた。その結果、次のような成果と課題が明らかになった。

1 研究の成果

児童・生徒の「読解力」を高めるためには、司書教諭がその専門性を生かし、教材や学習指導法を開発し活用しながら、担任と共に授業にかかわることが重要である。本研究では、次に挙げる4つの研究開発を行い、実際の授業を通してその有効性を検証することができた。

(1) 児童が所定の本を探し出し、目的をもって読み進める学習指導(小学校)【育成能力1】

「読解力」を高めるためには、児童が学校図書館に興味・関心をもち、本に親しむようにすることが重要である。そのための学習活動として「わくわくブックラリー」を開発し、実施した。この学習活動を通して児童は、学校図書館の分類法を理解し、課題追究のために集中して読み進めることができた。

(2) 話し合いや発表の仕方に係る学習指導(小学校、盲・ろう・養護学校)【育成能力3】

小学校では低学年対象に話し合いと発表の仕方を、ろう学校の中等部では読解に基づくプレゼンテーションの仕方について担任と共に指導した。従来、こうした指導については、学級担任や教科担任が一人で行ってきたが、情報活用能力育成の視点から司書教諭が必要な資料等提供しながら指導を行うことにより、全校での能力育成が可能になる。

(3) 情報カードを活用した学習指導(中学校)【育成能力1・2・3】

情報カードの作成・活用に係る指導を全校単位で行った。生徒が作成したカードは図書館で分類別に一括整理・保存し、だれもが検索できるようにした。このことにより、情報カードは生徒個人のものから学年を超えた知的財産となった。また、情報カードの蓄積が生徒の読書及び学習に対する意欲を高めることにつながった。

(4) 生徒が意欲的に書き進める小論文作成に係る学習指導(高等学校)【育成能力1・2・3】

要約文を書く教材、グラフや表を読み取るための教材、複数の新聞記事を読み比べるための教材を作成し事前演習を行った。また、小論文のテーマに沿ったブックリストを作って配布するとともに、対話を通して複数の異なる観点から書かれた本を紹介した。こうした演習や多角的思考を促すレファレンスは、生徒の小論文執筆の支えとなった。

2 今後の課題

現在、小・中学校の司書教諭の多くは学級担任を兼務しているため、上記の取組を一人で推進することはできない。また、高等学校等においては、学校図書館の運営に係る組織に国語科担当の教諭が所属していない学校がある。そこで、司書教諭は学校図書館部会等のリーダーとして組織を動かし、国語科と連携を図りながら全校体制で研究開発を行う必要がある。特に、国語科以外の分野における「読解力」に係る研究は先行例が少なく、開発が望まれる。

本研究は、教科等の指導と関連を図った学校図書館運営計画を基盤としたが、今後、その編成に当たっては、関連する学習内容をあらかじめ洗い出し、クロス・カリキュラムの発想をもって、合科的な授業づくり等を行う必要がある。司書教諭を中心にこうした教育課程編成を行うことは、児童・生徒の学びをつなげ、深め、知的好奇心を高めるものと確信する。